



第36回日本ハイパフォーマンス・

メンブレン研究会が

2021年3月20日(土)~21日(日)に

ウェブにて開催予定です。

当院からは臨床工学科 野口 幸 技士長が

学術発表されますので、ご紹介します。



## 第36回日本ハイパフォーマンス・メンブレン研究会

HOME

開催概要

プログラム

参加登録

研究会参加までの流れ

座長・演者の皆様へ

参加者の皆様へ



新着情報

2021.03.01 [参加登録](#)を開始いたしました。

2021.02.28 ホームページを公開いたしました。

【運営事務局】

ちたクリエイティブ株式会社

〒456-0058 名古屋市熱田区六番3-5-3 S-FORT六番町204

TEL : 052-265-9997 FAX : 052-308-5229 E-mail : 36hpm@cop-chita.com

HOME

プログラム

開催概要

プログラム

第1日目 3月20日(土)

参加登録

開会の辞

12:00 ~ 12:10

理事長: 水口 潤 (川島病院)

研究会参加までの流れ

基礎研究

12:10 ~ 12:40

座長・演者の皆様へ

座長: 山本 健一郎 (川崎医療福祉大学)  
春原 隆司 (ニプロ株式会社)

参加者の皆様へ

**O-01 血液透析中の尿素除去動態について1-compartment model による解析精度を向上させるための検討**

村上 淳 (東京女子医科大学 臨床工学部)

**O-02 I-HDF療法における間歇的な逆濾過補充が溶質除去性能の回復効果に与える影響**

渡辺 誠也 (法政大学大学院理工学研究科応用化学専攻)

**O-03 両腎摘出ブタを用いた透析モデルの構築**

梅野 寛 (旭化成メディカル(株) 研究・事業開発本部)

膜の性能評価 I

12:40 ~ 13:10

座長: 田岡 正宏 (偕行会)  
須賀田 徹 (東レ・メディカル株式会社)

**O-04 長時間透析で低分子量蛋白の除去に適するのは、PES膜とATA膜のどちらか**

木村 優之 ( (医) 一陽会 横川クリニック 血液浄化部)

**O-05 蛋白質吸着に着目したPMMA膜性能評価**

宮内 大輔 (新潟大学医学総合病院 診療支援部 臨床工学部門)

**O-06 CTA膜を使用した血液浄化器の溶質除去特性**

高 義尚 (特定医療法人 あかね会 中島土谷クリニック)

膜の性能評価 II

13:10 ~ 13:50

座長: 西田 隼人 (山形大学病院)  
中川 宜明 (株式会社ジェイ・エム・エス)

**O-07 FIX-210 Uの前置換と後置換OHDFでの性能評価**

下門 清志 ( (医) 藍蒼会 しもかどクリニック)

**O-08 旭化成メディカル社製ヘモダイアフィルターABH-22LA (ABH) の性能評価**

野口 幸 (医療法人 康仁会 西の京病院)

**O-09 ヘモダイアフィルタ性能評価〜特定臨床研究の経験〜**

岡田 一義 (社会医療法人川島会 川島病院1)

**O-10 特定臨床研究によるABH-22PAの性能評価**

道脇 宏行 (社会医療法人川島会 川島病院)

臨床評価

13:50 ~ 14:10

座長: 長沼 俊秀 (大阪市立大学)  
富沢 成美 (日機装株式会社)

**O-11 高齢患者におけるf-HdFを試みて**

伊東 健 (援腎会 すずきクリニック)

**O-12  $\beta$ 2-microglobulinの産生に影響を与える背景因子の調査**

田中 悠作 ( (社医) 川島会 川島病院 臨床工学部)

## 旭化成メディカル社製ヘモダイアフィルターABH-22LA (ABH) の性能評価

医療法人 康仁会 西の京病院 診療支援部会 臨床工学科<sup>1)</sup> 透析センター<sup>2)</sup>

野口 幸<sup>1)</sup> 萩原誠一朗<sup>1)</sup> 中川美沙子<sup>1)</sup> 二神徳明<sup>1)</sup> 山岡みゆき<sup>2)</sup> 高田史門<sup>2)</sup> 吉岡伸夫<sup>2)</sup>

### 【目的】

ABH は生体適合性が高く ALB 漏出量を抑えながら使用できるヘモダイアフィルターである。今回、ABH の効果を Polyflux 210H (Polyflux) と比較検討したので報告する。

### 【対象・方法】

当院透析患者 10 名を対象とし ABH と Polyflux をクロスオーバーで評価した。治療条件は、QB280ml/min、QD600ml/min、QS250ml/min とした。比較検討には UN、Cre、UA、IP、 $\beta_2$ -MG、 $\alpha_1$ -MG の除去量、除去率、クリアスペースとした。 $\beta_2$ -MG、 $\alpha_1$ -MG、ALB 漏出量は 1 時間毎の除去量と総除去量を比較した。生体適合性を評価するために PTX3 は治療前後の変化率を測定。また白血球、血小板、TMP は開始 30 分後、1 時間後、2 時間後、3 時間後、4 時間後の変化率を比較した。

### 【結果】

小分子量物質の除去量、除去率、クリアスペースで有意差は認めなかった。 $\beta_2$ -MG の除去率で ABH 82.1 $\pm$ 3.1% Polyflux 79.8 $\pm$ 4.2% (P<0.01) と ABH が有意に高く、 $\alpha_1$ -MG のクリアスペースで ABH 1.5 $\pm$ 0.2L MFX 1.3 $\pm$ 0.1L (P<0.01) と ABH が有意に多かった。また TMP は時間毎の差はなく ALB 総漏出量も有意な差を認めなかった。PTX3 の変化率に有意差は認めなかったが、開始 2 時間後の白血球変化率で ABH -6.9 $\pm$ 10.9% Polyflux -14.3 $\pm$ 7.0% (P<0.05)、血小板は開始 1 時間後で ABH -2.2 $\pm$ 4.0% Polyflux -5.2 $\pm$ 5.6% (P<0.05) で Polyflux が有意に低下した。

### 【結語】

ABH は低蛋白量物質の除去性能が高いだけでなく ALB 漏出量を抑えることができるヘモダイアフィルターであると考えられる。また、生体適合性も高いことからファウリング現象が抑制でき ALB 低値の患者にも安全に使用できると示唆された。